



サラシナショウマ

目 次

薬用植物の紹介	薬用植物園長代行	草野源次郎	1
薬学修業年限延長問題とカリキュラム	学長	矢内原千鶴子	2
就任の挨拶	理事長	川島康生	3
創立百周年記念事業	創立百周年記念事業委員長	川島康生	4
ハイテクリサーチセンター整備事業	研究委員長	天野富美夫	6
平成14年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正郎	7
平成14年度市民講座を終えて	市民講座委員長	馬場きみ江	8
進学説明会とオープンキャンパス	入試副委員長	石田寿昌	9
前期授業評価アンケートおよび成績評価の見直し	教務部長	石田寿昌	10
学生相談室からのメッセージ	カウンセラー（学生相談室相談員）	板倉佐恵子	13
平成14年度就職状況中間報告	就職部		14
平成13年度学校法人決算	事務局長	肥塚敏彰	15
薬用植物園見学会	薬用植物園長代行	草野源次郎	16
「大薬祭」を歩く	学生部長	土井勝	17
図書課だより			18
総務課だより			19
教務課だより			21
施設課だより			22
経理課だより			22
学生課だより			23
平成14年度後期行事予定（学部・大学院）			25

サラシナショウマ *Cimicifuga simplex* Wormskjold (キンポウゲ科)

多年生草本で、大きいものでは草丈が1.5mにもなる。花が少なくなる10月後半から、写真のようにブラシ様の白色穂状花が咲く。切り花にしたいほどであるが、花柄が長く間伸びした感じがある。また、小さな花が落ちて掃除に追われて困る。わが国全土に分布し、山地の木陰や草原に生える。近畿地方では伊吹山に群生しており、8月頃から白い花が目立つ。シベリア、朝鮮にも分布している。中国では同属植物の北升麻、西升麻、関升麻が優勢であるが、一部にサラシナショウマ(単穂升麻)も分布する。

補中益気湯、升麻葛根湯、乙字湯などの漢方処方に配合されるショウマ(升麻)の基原植物である。升麻は升提を意味し、下垂した内臓を引き上げるということに由来する。升麻は神農本草経(漢時代)に上品として収載されているが、数種のキンポウゲ科サラシナショウマ属植物と共に、ユキノシタ科トリアシショウマ属植物も含まれていたと思われる。金元時代にサラシナショウマ属由来の升麻が重要視された。その証拠の一つとして、名医李東垣により補中益気湯(補剤の王者という意味の「医王湯」の別名もある)に升麻が配合されたことがあげられる。現在ではかぜの初期や皮膚炎に使う升麻葛根湯も、金元時代に創出された漢方処方で、はしかなどで麻疹が出ないままに重症化するとき、発疹させる目的で利用されたという。それらの影響を受けてか、水戸藩の侍医原南陽により、戦場で身体を冷やして起こす「痔」を治す目的で、小柴胡湯の半夏と人参の代わりに升麻と大黃が配合され、乙字湯が創出された。なお、現行の乙字湯は江戸時代末期に浅田宗伯により変方されたもので、さらに、大棗と生姜の代わりに、当帰が加えられた。

有名な「人参」に関連づけて、朝鮮人参、高麗人参、竹節人参、広東人参、三七人参、田七人参、トチバニンジン、ツリガネニンジン、ツルニンジン、ナニンジン、ブラジルニンジンなど多くの生薬名や植物名があるように、ショウマにもイヌショウマ、オオバショウマ、キケンショウマ、レンゲショウマ、ルイヨウショウマ(キンポウゲ科)、アカショウマ、トリアシショウマ、キレンゲショウマ(ユキノシタ科)、トガクシショウマ(メギ科)などショウマの名が付くものが多い。キレンゲショウマは日本人が自分達で学名を付けることができるようになった頃

に、発見され名付けられた植物である。

サラシナショウマなどの根茎を升麻と呼び、漢方処方に配合するが、その利用法から帰納すると、升麻の薬理効果は消炎、解熱、解毒、止血などになる。升麻に含まれるポリフェノール類が薬理効果に関係する。一方、その同属植物 *Cimicifuga racemosa* と *C.americana* がヨーロッパとアメリカに自生している。ヨーロッパではその根茎を Black cohosh と呼び、生理不順や更年期障害の治療に利用してきた。そのための製剤もあり、広く利用されてきた。その影響であろう、最近アメリカでも類似の代替医薬が利用され、研究も盛んである。われわれは cimicifugic acid A~F と名付けたポリフェノール類を報告したが、それらが女性ホルモン様作用を示す本体であった。これらのポリフェノール類は抗炎症作用も示し、漢方処方の利用法から帰納される痔の治療効果や更年期の不定愁訴の改善効果を説明する科学的根拠であろう。升麻にはトリテルペン系サポニンも含まれ、ポリフェノール類の溶解性をあげ、咽などの炎症を鎮める働きをしていると思われる。

升麻の語源になっている升提がどのような薬理作用に関係するかは不明である。先に述べたポリフェノール類はコラーゲン分解を抑える作用を示すので、下垂内臓を引き上げるのであろうか。女性ホルモン様作用が関係しているのであろうか。升麻のサポニンのゲニンには強い抗発ガンプロモーター活性を示すものがある。そのメカニズムは不明であるが、升提とされた作用の一部に関与するのであろうか。

院生の時に導入された薄層クロマトグラフ法を使って予試験を行い、多くの未解明成分を含む升麻の成分研究を始めた。多くの類似成分を含み、それらを分離するのに多くの時間を費やした。サラシナショウマの白い花を眺めながら、この植物との長い付き合いのことを思った。

(教授 草野 源次郎)



「世界有用植物事典」
(平凡社)

薬学修業年限延長問題とカリキュラム

学 長 矢内原 千鶴子

薬剤師職能関係者の間で薬学修業年限延長の必要性が積極的に論じられはじめてより既に10年以上の年月が経過しました。一方、薬学教育の当事者である大学関係者のこの問題に関する議論は、全体としては長く不完全燃焼状態にあり、それが幾分活性化したのはここ数年に過ぎません。しかもいまだ全体としての具体案がまとまったわけではありません。このたび、教育、職能、行政を含めて関係者全体で、来年度に向けて、その結論を急ぐべく文部科学省、厚生労働省による体制がようやくでき上がりましたが、現実、年限延長実現への道は平坦ではなく、具体的に解決されねばならない難問が数多く横たわっているといっても過言ではないでしょう。ステレオタイプの喧伝の時は過ぎ、一つ一つの問題について、学生、保護者の信頼に答え得る、また社会への説明責任を果たし得る形で具体的な方針と方法を見出さねばならない時に来ているといえるでしょう。

平成5年12月、文部省（当時）によって設けられた“薬学教育の改善に関する調査研究協力者会議”は、薬剤師職能団体と厚生省（当時）の薬学教育年限延長の要望に対し、約2年半に亘る検討の結果として3つの提言を行いました。すなわち、①医療薬学の充実と学部教育カリキュラムの抜本的改革、②医療現場のニーズに応える修士課程の充実、③年限延長に関しては、大学の現状、実務教育の受け入れ体制、創薬基礎薬学への影響などを考慮し、現行制度の枠内で薬学教育の改善を図ることが現実的である、とするものでありました。教育現場では、この①と②の提言に対してその後5年間、成果はいまだ十分とはいえないまでも、その実現に向けての努力がなされてきました。実務実習についても関係の方々の努力の結果、一段と拡充しました。また同時に、種々の委員会、懇談会による検討がなされてきました。こうした中で、本年9月、改めて文部科学省による“薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議”が発足しました。来年度に提出が予定されているこの会議の提言は、厚生労働省による“薬剤師問題検討会”のそれと相まって、薬学教育年限延長問題に決着をつけるものになると考えられます。

大阪薬科大学では、平成11年、教育年限延長に関する日本私立薬科大学協会のアンケートに答えて、薬剤師教育6年の必要性を認めつつ、学部4年後の2年に、卒業後多方面に進む学生の選択が可能な複数

のルートを設定することを提案しました。このたびの文部科学省と厚生労働省による最終結論がどのようなものになるにしても、私ども教員にとっては学生、特に制度の変革が予想される時期に在籍する学生に対し、その教育を一日たりとも疎かにできません。こうした時期にこそ、本質を見据えつつ、柔軟に賢明に沈着に、将来を見越した本学独自の教育方針とその実践の道を拓いておかなければと考えております。それは、本学が、やがて薬学にも到来が予想される少子化による危機に対し、それに耐えるに十分な力を蓄えておくという意味においても重要であると考えます。

教育方針の基本はいうまでもなくカリキュラムにあります。日本薬学会は、このたび薬学教育についての新しいモデルコアカリキュラムを提案しました。本学では既に新しいカリキュラムの作成に取りかかる計画を立てていたところでありますが、このモデルコアカリキュラムは基本的な指針としてすぐれた内容であり、本学のカリキュラム改革にとってもきわめて示唆に富むものであります。新しいカリキュラムにより、最近の本学における薬学基礎教育の弱点を補強し、薬剤師養成のための基礎教育とともに、学部4年間の教育の徹底した充実を目指しています。いうまでもなく本学の特色ある一般教育が人間教育としてきわめて重要であることは論をまちません。新カリキュラムが本学に新しい息吹を吹き込み、100年の伝統を新時代に生かす先導役となってくれることを願っております。

我が国の薬剤師職能は、残念ながら医療体制や診療報酬体系など、外からの力が働いた結果でありましたが、この10年著しい変化を遂げてきました。しかし、この薬剤師職能の変革期に病院薬剤師として働いた経験を持つ私自身が考えるところでは、薬剤師養成教育の基礎として最も重要な部分は以前とそれ程大きく異なるものではありません。薬剤師職能の過去と現在をない交ぜにして、過去の教育の基本を否定することは、薬学教育にとって、「角を矯めて牛を殺す」の譬えに等しいといえましょう。また、すぐれた“薬学”の学問としての後楯があってはじめて、単なる技師ではない薬剤師の職能に誇りと自信が生まれると考えます。

薬学が教育、研究、職能の全ての面において重大な岐路に立つ現在、大学教員としての責任の重さを痛感するところでもあります。

就任の挨拶



理事長 川島 康生

国づくりの基礎は人づくりにあると言われます。我が国は、戦後半世紀間、荒廃の中から国を再建するにあたり、経済復興を第一の目標に掲げて努力し、今日の隆盛を見るに至りました。しかしその間、国づくりに最も大切な人づくりを疎かにしてきたことが今日の人心の荒廃を招き、又バブルがはじけた後の回復がままならぬ一因ではないかと考えます。

日がまた昇る国にするために、まず大切なのは人づくりであり、とりわけ資源のない我が国に必要なのは科学立国、技術立国を支えるための人材の育成でしょう。薬学もその一端を担うものであり、本学もその機能を十分に発揮して有能な薬学研究者、薬剤師を世に送り出すことが期待されているところです。

私は長年、薬学とは隣り合わせの医学の領域で、教育・研究とその臨床に従事してきましたが、今日我が国の医療は大きな転換点にさしかかっていると思います。我が国の医療は国民皆保険が功を奏し、国民の健康意識の高さも相まって、世界一の長寿社会を形成しました。しかしながら昨今では医学、医療技術の急速な進歩に、これを支えるための経済発展が追いつかず、色々なところで綻びができつつあります。

今日、我が国の国民が支払っている医療費は、世界の先進国の水準から見ればむしろ低く抑えられています。折しも経済不況とあってその増額は困難な状況にあります。そこで医療における無駄を省くことが求められ、そのための対策が色々講じられてきました。そのうちの一つが、薬剤費の節減を目標の一つとした「医薬分業の推進」であったと思います。

このことは薬剤師への需要を生み出す一方、薬学部・薬科大学における薬剤師育成の重要性を再認識させることになったのではないのでしょうか。もちろん、薬学部・薬科大学においては、薬学の研究とともに優れた薬学研究者を育成することも大切ですが、医学部が臨床医師の育成を第一の目標としているのと同様に、薬剤師の育成を第一の目標とするこ

とは当然のことでしょう。本学においてもすでにそのような基本方針のもとに学生教育が進められているものと思っております。

国民の健康増進のためには、医学と薬学が車の両輪として協力しなければならぬことは言うまでもありません。近年、あまりにも多く報告され、国民の医療に対する信頼を失わせている医療事故の3割は薬剤に関するものと報告されています。欧米の病院と同じように「病棟に薬剤師を配置せよ」という声は決してまだ大きくはありませんが、薬剤師をそのように配置することによって投薬にまつわる過誤を減少させることを期待しての声であると思います。今後育っていく薬剤師達はその期待に応えられるのでしょうか。

薬剤師の活動の範囲が増えることは、それだけ薬剤師の責任が大きくなることでもあります。従来医師・看護師が行ってきた業務を本来の姿として薬剤師が分担するようになれば、それに伴う責任は当然かかってまいります。この問題は理事長として口をさしはさむ問題ではないかもしれませんが、長年医療にかかわってきた者として臨床薬学の教育の一環として取り扱っていただきたい問題であると思っております。

長年医学の立場から薬学を見てきた者として、このたび百年の伝統のある本学の理事長をお引き受けするに際し、大きな責任を感じております。今後は大阪薬大の教職員がその目標に向かって十分能力を発揮されるように、そしてこの学園に学ぶ学生諸君が所期の目標を達成できるように環境を整えることが理事長としての使命と考えます。

幸い本学は、先達のご尽力により、平成8年4月にキャンパスの移転という大事業を成し遂げ、すばらしい環境のもとに実りある教育・研究を展開しようとしているところです。修業年限延長問題、その他本学を取り巻く環境は必ずしも順風ばかりとは申せませんが、教職員の皆様のご支援をいただき、その発展をはかりたいと考えております。

創立百周年記念事業

創立百周年記念事業委員長 川 島 康 生

本学は、明後年の平成16年（2004年）に創立100周年を迎えます。多少の前史はありますが、明治37年（1904年）5月9日に私立学校令に基づく「大阪道修薬学校」の設立が大阪府知事から許可されてから、満100年になるわけです。

創立百周年記念事業準備委員会が理事長、学長のほか同窓会（3名）、学内教員（3名）、事務局（4名）という構成で本年1月から6月までに3回会合をもち、委員だけでなく広く学内外の意見・提案を取り上げて記念事業の企画を検討し、6月28日の理事会に諮りました。そして創立百周年記念事業委員会を発足させるとともに、それぞれの事業毎に専門委員会を設けて実施に向けて取り組むことになり、各専門委員会の委員長と委員も〔別表〕のように決まりました。また、去る9月11日に記念事業委員会の初会合がもたれ、これらの創立百周年記念事業を実施し、教育環境の整備充実を図るために、募金事業も行うことが検討され、10月23日の理事会、11月27日の評議員会に諮ることになりました。

〔創立百周年記念事業概要〕

1. 百年史の刊行
2. 記念式典、記念講演の実施
3. 創立発祥の地に記念プレートの設置
4. 学歌碑の建立
5. 学歌のCDの制作
6. University Identityの開発（含ロゴマーク）
7. 記念市民講座の開催
8. 教育環境の整備（含記念植樹）
9. 奨学金制度の創設
10. 松原校舎の鐘・電灯の展示（含校章）
11. 資料室の整備・充実
12. 外国の大学との交流・提携

〔百年史の刊行〕

- ・百年史編纂委員会の初会合が去る9月24日にもたれ、編集構成の基本案が次のように確認されました。
 1. 外部制作スタッフを活用して制作する。
 2. 「80年史」が創立から50年までを中心に書かれているので、100年の後半50年（新制大学になってから）に重点を置いて編集する（含高槻キャンパス移転の記録）。

3. ビジュアルな誌面構成にする。
4. サイズはA4判とする。
5. 発行時期は平成16年（2004年）9月とし、10月の記念式典参列者に配付する。
6. 制作部数は4,000部以上とし、高校や100周年以後に入学の学生も含めて関係方面に広く配付する。

〔記念式典・祝賀会〕

- ・式典、祝賀会の日程と会場については、平成16年10月9日（土）にリーガロイヤルホテルにて、午後には式典や講演を行い、夕方から祝賀会を行うことが予定されています。

〔創立発祥の地に記念プレートの設置〕

- ・創立発祥の地への記念プレートの設置については、去る9月5日に理事長と学長が大阪道修薬学校の開学の地である現在の塩野義製薬の本社を訪問し、同社の敷地内に本学発祥の地の記念プレートを設置させていただくことを快諾していただきました。

〔奨学金制度の創設〕

- ・奨学金制度の創設については
 - ①成績優秀な学生に給付する奨学金
 - ②経済的に学費支弁が困難な学生に対して、大学の紹介によって金融機関から貸付を行う奨学金、の2種類の奨学金制度が検討されています。

百周年というのは大学にとって大きな節目であります。企画したいろいろの記念事業を成功裏に実施し、次なる100年に向かっての輝かしい発展を目指していきたいと念じていますので、各界の皆様の深いご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

大阪薬科大学創立百周年記念事業関連委員会委員一覧

〔別表〕

	教 員	同窓会	事務局
創立百周年記念事業委員会 委員長 川島理事長 副委員長 矢内原学長	土井勝、栗原、石田、 池田、千熊、坂田	有田、栗田、三野、 田原、堀口	肥塚、高橋正、秋月、 松尾
専 門 委 員 会			
1) 記念式典・祝賀会委員会 委員長 土井教授 副委員長 有田理事	栗原、石田、池田、 千熊、坂田	栗田、三野、田原、 堀口	肥塚、高橋正、秋月、 松尾
2) 百年史編纂委員会 委員長 加藤教授	馬場、濱中、楠瀬、 平田	三野、安田	肥塚、高橋正、秋月
3) 大学ロゴマーク作成委員会 委員長 栗原教授	掛見、阿部、土井光		福永
4) 記念市民講座委員会 委員長 馬場教授	掛見、松村靖、松島、 辻坊	谷口	福永
5) 奨学金制度創設委員会 委員長 土井教授	池田、大桃	三野	藤田純、松尾
6) 松原校舎の鐘・電灯展示委員会 委員長 石田教授	藤本、田中麗、浦田		後久
7) 創立発祥の地に記念プレート 設置委員会 委員長 矢内原学長	土井勝、栗原		肥塚、秋月
8) 国際交流提携委員会 委員長 矢内原学長	石田、掛見、田中一、 馬場	有田、堀口	秋月、古本
9) 学歌碑建立委員会 委員長 有田理事	坂田、千熊、濱中、藤本		後久
10) 学歌CD制作委員会 委員長 坂田教授	松村瑛、濱中		藤田純
11) 記念植樹委員会 委員長 栗田理事	馬場、田中麗		後久

ハイテクリサーチセンター整備事業

研究委員長 天 野 富美夫

本学では、平成14年度から5カ年計画で、文部科学省の私学助成研究事業の一環として、ハイテクリサーチセンター整備事業「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機序の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」を推進することになりました。本研究事業は、矢内原学長を代表者とし、本学の教員23名が参加する一大プロジェクト研究です。これは、21世紀の薬学研究の推進のため、専門領域におけるさまざまな研究を統合・重点化してハイテクリサーチセンターを整備することにより、有機的なつながりを持つ「総合薬学研究領域」を設置することを目指しています。本研究では、本学のもっとも独創性の高い研究が集約されている「DNA結合分子の構造と機能に関する研究」を基盤として、これに立脚した「疾病の発症機構の解明」をはかるとともに、その研究成果を用いて「疾病の診断・予防と治療薬の開発」を行うことを目的としています。

なかでも「DNA結合分子の研究」においては、単離したDNA結合タンパク質のX線構造解析と機能の研究をはじめ、プロテオーム解析、DNAに結合する金属錯体や天然物の抗がん活性や抗微生物活性の研究、DNA結合複合体の酵素活性調節や免疫賦活作用の研究、ならびにDNA結合活性を有する薬物の体内動態の研究等を中心的に推進します。また、これらの基盤的研究を応用してさまざまな疾病の発症機構を解明し、その診断・予防および治療薬を開発することを目標にしています。

DNAは遺伝情報の担い手として重要ですが、内在性物質および薬物や異物などの外部からのさまざまな結合分子によって機能発現が調節されていることが知られています。さらに、ヒトの正常細胞とがん細胞、またヒトとウイルス・細菌等の微生物との間にはDNA結合分子の性状に微妙な差があり、これを解析することによって感染症やがんの発症を診断したり予防・治療する方法を開発することが可能であると期待されます。さらに、死細胞由来のDNAの断片が種々の疾病の原因となることが知られているので、血液や組織中のDNA結合分子や細胞表面のレセプターを研究することによって疾病の診断や予防・治療に有効な薬物を開発することも期待されます。また、生体成分の微量分析法の開発により、これらの研究が効率良く推進されると想定されます。

なお、研究の実施にあたっては、常に、各分野の研究をこれらの対象に向けて統合する努力をするため、次のような研究体制を敷いています。(1)研究共

同施設の重点的な整備と拡充、(2)研究推進会議の設置と研究ネットワーク網の整備、(3)研究評価委員会の組織強化と定例の研究発表会の開催、さらに、(4)研究成果の公表とパテント（技術新案特許）の申請・取得作業手順の整備と推進等です。これまでの本学の現有施設・備品は、一部で老朽化し、また新技術の開発や応用に耐えられなくなっているものがありますので、これらを刷新し、高度な研究開発技術のレベルを保つために、本事業の予算を有効に使用する計画です。そのため、初年度の平成14年度は、共焦点レーザー顕微鏡、蛋白質解析トータルシステム、ならびにICP質量分析装置の研究装置及び備品を整備することが認められ、現在、実際に導入の手続き中です。近い内にこれらの装置・備品が設置され、稼動されることによって、本学の研究の推進に大きな寄与をするものと期待されます。研究委員会、ハイテクリサーチセンター運営会議、施設委員会等で、これらの備品の円滑な運用を検討していますので、どうぞ御利用下さい。

本研究の推進によって、生活習慣病やがん、感染症など、高齢化社会を迎えた21世紀の日本が抱えるさまざまな疾病について、その診断や予防、治療に役立つことが期待されるだけではなく、従来の研究には見られなかった、異なる薬学研究領域の統合による新技術の開発やそれに基づく新たな発見がなされるものと期待されます。そして何よりも、シンポジウムや研究発表会を通じて、本学における研究者の間での共同研究をはじめとする交流が活性化し、新たな研究の発展につながることを願っています。

最後になりましたが、大阪薬科大学の輝く未来の発展の一過程として、本研究事業が役立つことを願っております。

大阪薬科大学ハイテクリサーチセンター
平成14年度シンポジウムプログラム

「DNA・RNA結合分子を介した生体機能の解明と制御」

日時 平成14年12月7日(土)午後1時

会場 大阪薬科大学講義室2A

1:00~1:45

DNAのキラリティーと分子認識

大阪薬科大学・講師 浦田 秀仁

1:45~2:30

人工分子によるDNA配列の特

異的認識と反応

九州大学大学院・教授 佐々木茂貴

2:30~3:15

RNA医薬品によるAIDS治療

千葉工業大学・教授 高久 洋

3:15~3:45

ポスターセッション

3:45~4:30

蛋白質合成開始因子4Eの

mRNAキャップ認識機構

大阪薬科大学・教授 石田 寿昌

4:30~5:15

損傷DNAの認識と細胞の応答

大阪大学大学院・教授 花岡 文雄

平成14年度公開教育講座

公開教育講座委員長 掛 見 正 郎

「公開教育講座」「市民講座」は、大阪薬科大学学則第45条に『公開講座』として位置づけられていることを踏まえ、本年度は両委員会の構成員を同一とし、両講座の実施にあたって委員全員が協力してあたることを目指しました。

平成14年度公開教育講座は、本学において、6月22日(土)、9月28日(土)、2月22日(土)の3回開催することとし、また、第32回公開教育講座(9月28日)から、受講された薬剤師の方には、(財)日本薬剤師研修センター等の「受講シール」を受付にて当日配付することとしました。

第31回 「遺伝子治療をめぐる最近の話題」

開催日：平成14年6月22日(土)

演 題：「遺伝子治療と核酸化学」

大阪薬科大学機能分子創製化学研究室

講師 浦田 秀仁

「創薬としての遺伝子治療：ポストゲノム時代の薬物療法」

大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学助教授 森下 竜一



第31回公開教育講座(浦田先生)

第32回 「がんをめぐる最近の話題」

開催日：平成14年9月28日(土)

演 題：「漢方薬はがんの転移に効果があるか？」

富山医科薬科大学和漢薬研究所教授
 濟木 育夫

「がん診療におけるアウトカム評価ーがん征圧の臨床科学基盤ー」

京都大学大学院医学研究科教授
 福島 雅典



第31回公開教育講座(森下先生)

第33回 「臨床検査をめぐる最近の話題」

開催日：平成15年2月22日(土)

演 題：「検査値、読み方のカンどころと健診の
 ススメ」

大阪薬科大学臨床化学研究室助教授
 藤田 芳一

「高感度免疫測定法が拓く循環器疾患診療の新たな展開」

関西医科大学臨床検査医学講座教授
 高橋 伯夫



第32回公開教育講座(濟木先生)



第32回公開教育講座(福島先生)

	第31回	第32回
参加者数 (内、卒業生)	75名 (51名)	61名 (28名)

平成14年度市民講座を終えて

市民講座委員長 馬場 きみ江

平成14年度の市民講座は第13回として5月18日(土)、秋には第14回を11月16日(土)に開催しました。両日とも講堂がほぼ満員となり、参加者数は延べ約600名に達しました。終了後のアンケート調査によると、参加者の7割以上が高槻市在住の方で、年齢層は60歳以上が8割近くを占め、今回の参加が2回目以上という方が7割を超えるという結果のとおり、まさに市民講座として定着し、参加者の方にも恒例行事として心待ちにいただいているようです。

第13回市民講座は、神経内科がご専門の大阪医科大学講師杉野正一氏に「脳卒中の予防と治療」、岡空肛門科院長の岡空達夫氏に「痔(じ)の話」の2演題をご講演いただきました。両講演共に大変分かり易い内容で、質疑応答では多数の方より質問があり、質問者本人の事例も交えるという質問が多く、時間延長するなど大好評でした。“脳卒中”、“痔”の両テーマとも過去の参加者の方々から希望の多かったものよりテーマを選択したこともあり、大変興味深く受講していただけたようです。

第14回市民講座は、ここ数年頻繁化し問題視されている“医療ミス”について、我が国における心臓移植の先駆者であり、国立循環器病センターの病院長、総長、名誉総長と歴任されてこられた、本学理

事長の川島康生氏に「医療事故はなぜおこるのか？」をご講演いただきました。医療現場で長く管理の最高の任に立ってこられ、豊富なご経験をお持ちの川島先生より、事故がおこらないようにするための仕組みについて、実例を挙げてお話いただきました。また、心療内科学がご専門の関西医科大学教授中井吉英氏には「病気の背後にある内面の世界」というタイトルで、「からだ」と「こころ」との関係と、病気の背後にある内面の世界についてご講演いただきました。

第12回より一つのテーマに絞らず、違ったテーマについて2講演行っていますが、今回も参加者には好評のようでしたので、この形式を続けていく予定です。

最後になりましたが、本講座の開講にあたりご共催いただきました高槻市、日本薬学会近畿支部、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会、大阪薬科大学同窓会、並びにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会に厚く御礼申し上げます。また、資料などをご提供いただきました協賛企業、「くすりの相談室」の相談員としてご協力いただきました薬剤師の皆様にも深く感謝申し上げます。



第13回市民講座(杉野先生)



くすりの相談室



第13回市民講座(岡空先生)



第14回市民講座(中井先生)

進学説明会とオープンキャンパス

入試副委員長 石田 寿 昌

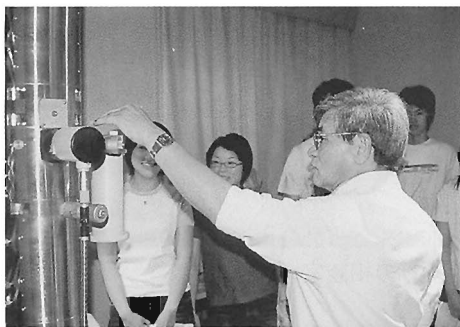
●進学説明会

平成14年度進学説明会は、6月5日(水)大阪東急ホテルにおいて、また6月14日(金)には広島国際会議場において、高等学校ならびに予備校の先生方を対象に行われました。説明会に引き続いて受験生や保護者を対象とした説明会も行いました。両日の延べ参加学校数は約120校と昨年より若干減少しました。参加者のアンケートからは、学校週5日制の完全実施に伴う学校行事や授業時間の過密化が高校教員等にとって説明会への参加を難しくしているように思われました。しかし、このような状況の中でも多数の参加があったのは、本学への関心の高さを反映しているものと考えています。進学説明会では最初に本年度リニューアルしたビデオを上映して「バーチャル学内見学」を楽しんでいただきました。ついで大学紹介、入試概要、学生生活、奨学金制度、薬剤師国家試験、就職等に関して全般的な説明をするとともに参加者との活発な質疑応答を行いました。最後に個別相談コーナーを設け、より詳細な質問に対応いたしました。今回の進学説明会に対してはおおむね満足したとのアンケート結果をいただき、一定の成果があったものと考えています。

●オープンキャンパス

8月2日(金)および8月23日(金)には、オープンキャンパスを開催しました。当日は入試の種類とその内容について説明するだけにとどまらず、「薬学」とはどのような学問なのか、また4年間の薬学教育を終えた後の進路などについて説明の後、情報科学演習室を開放しCG(コンピュータグラフィックス)の体験を兼ねヘモグロビンの構造について学んだり、模擬実験(テーマ「遺伝子工学の世界」)を体験したり、また電子顕微鏡施設を利用したのミクロの世界を堪能したりの学内見学を行いました。さらに研究棟を全面開放して研究室の見学を実施しました。この研究室見学は、在学生の案内によるグループ見学ですが、実施後のアンケートによると、年齢が近く親しみやすく、また学生の本音(?)が聞けて良かったと好評でした。

なお、学内見学と併行して開設した個別相談コーナーでは、AO入試や推薦入試に関する質問が大半を占めたようです。本年度のオープンキャンパス参加者数は、過去最多の約720名となり、その他保護者同伴での参加も多く会場は両日も超満員となり、本学の夏恒例のビッグイベントとして定着したようです。



電子顕微鏡で見るミクロの世界



酸素を運ぶヘモグロビンってどんな構造をしているの?



グループに分かれて参加者を案内

前期授業評価アンケートおよび成績評価の見直し

教務部長 石田 寿昌

●平成14年度前期授業評価アンケート

前年度に引き続き、1～4年次前期に開講されている全ての講義・実習・演習に対して学生による評価アンケートを実施いたしました。アンケート集計結果を各学年に対してまとめたものを以下に掲載いたします。アンケートに協力した学生の延べ人数、設問項目内容、そして各学年の1～4年次全体との比較を示す棒グラフが示されています。設問項目の多くは3.5以上であり、学生からは比較的良好な評価を受けていると考えられます。

一方、各開講科目の評価結果と同講義に対する学生からの具体的な意見や要望は講義担当者に直接伝えられるようになってきています。これによって現在行われている授業（講義内容やレベル）が学生にとって妥当な内容であるかどうか、理解させるに十分な配慮がなされているかどうかを担当者自身が把握できると共に、さらに昨年度と比較してどの程度改善されたかを判断する材料として、自己評価に大いに役立っているものと期待しています。また、その一環として、講義担当者から学生へのフィードバックのために、講義に対する担当者の考えや受講学生への要望等を伝える「学生へのメッセージ」を小冊子としてまとめ、学生への閲覧に供しています。この小冊子は担当者と学生との意思疎通を図る上で極めて重要な媒体と考えています。特に、講義に対して不満意見を持たれている科目担当者はこの小冊子を通してきっちりと返答し意見を述べる責任があるのではないのでしょうか。

いずれにしても、このアンケート結果を有意義なものにするためには、今後も継続的に全ての講義・実習・演習に評価アンケートを行うことが必要です。それは、各年度の時系列による総合評価の解析が可能となり、それによって初めて説得力のある講義担当者に対する授業評価が可能となるからです。そして、このことは教員・学生そして本学の学部教育にとって極めて重要な意義を持つことは言うまでもありません。

	延べ履修人数	延べ回答人数	回 答 率
全学年	12,196名	8,176名	67.0%
1年次生	3,641名	2,701名	74.2%
2年次生	3,651名	2,429名	66.5%
3年次生	4,035名	2,602名	64.5%
4年次生	869名	444名	51.1%

●成績評価の見直し

従来から、本学の成績評価は厳しすぎるのではないかとの批判がありました。現在、本学の成績はA（80～100点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（0～59点）の4段階評価で、Dは不合格として扱っています。この4段階評価それ自体は、他大学の多くで採用されており、一般的な評価基準であると思われます。しかし、定期試験での成績がDであれば、再試験に合格してその科目の単位を取得することになりますが、現行では、再試験の成績はたとえ高得点をとっても60点が上限で、C評価しかできない制度になっています。これに対して他大学の多くは、再試験での最高得点をもっと高く設定し、学生の努力の成果を反映できるように配慮されています。そこで、(a) 再試験において高得点を得た科目に対しては従来よりも高い評価が得られるように、(b) しかし、定期試験でC以上の評価を得た学生よりも高い評価にならないように配慮して、本年度前期試験科目から成績評価を以下のように変更いたしました。

1. 定期試験を受験し不合格（59点以下）と評価された学生の再試験の評点は上限70点とする。
2. 定期試験を受験しC評価以上で合格した学生に対しては、平常時の成績（出席や小テスト、課題レポート）を加味した総合評価とし、再試験合格者と比べて不利益とならないように配慮する。
3. 定期試験欠席者の再試験評価は従来と同様の60点を上限とする。

但し、定期試験欠席者のうち、試験欠席届および欠席理由書を期限内に提出した場合の上限は次のとおりとする。

- (a) 忌引、就職試験、大学院入学試験の場合…100点
 - (b) 病気……………80点
 - (c) その他やむを得ない理由……………70点
- 以上のような変更によって、学生の本来の実力を反映した成績評価となるよう期待しています。

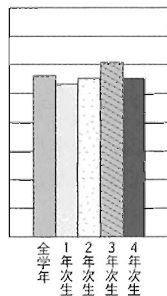


2002年度前期授業評価アンケート集計

設 問

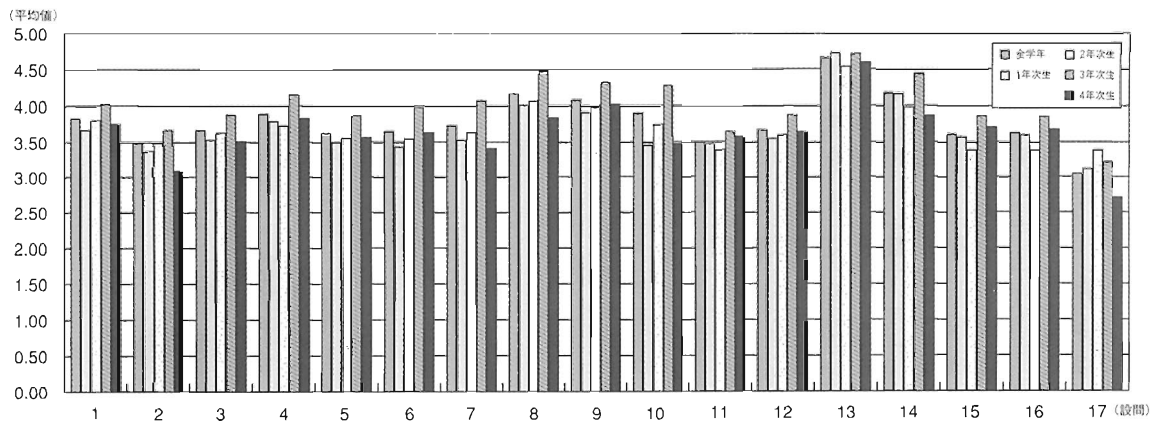
1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていま
ましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って
進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていま
ましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、
静かに授業が行われるように工夫されていま
ましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、
それは適切に行われていましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされて
いましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思
われますか
12. この授業を総合的に評価してください。次の
評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり
良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高
まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なもので
したか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予
習・復習等)していましたか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかとい
えばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえ
ない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポ
イント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。但
し、設問2, 9, 10については、0-該当しない(0ポ
イント)を設けている。また、各設問において回答
がない場合は、集計から除外している。



〔表の見方〕

設問ごとに平均値を左から
順に、全学年、1年次生、
2年次生、3年次生、4年
次生とグラフにしています。



学生相談室からのメッセージ

カウンセラー（学生相談室相談員） 板倉 佐恵子



本学に学生相談室が設置されて3年が経過しました。

学生相談室について、少し述べてみましょう。学生相談機関は、「在籍する学生の人間形成

のために、1対1で面接する面接室を設け、カウンセラーを配置して、修学進路問題や心理的問題など学生生活上の問題の相談に応じている所」と定義してあります。全国的に見た場合、学生相談室及びそれに準ずる場所が設置されている大学の割合は1997年のデータですが、53%という数字があります。短大も含めて2校に1校ということになります。6年ごとの調査なので来年度がその年になりますが、その数はもっと増えているはず（本学もその時には加えられます）。相談件数も増加傾向にあるようです。本学においても年々利用する学生は増えていますが、まだまだ一部での利用にとどまっています。

さて、実際の学生相談室ってどんな所なのでしょう。ある大学での「学生相談室のイメージは？」の調査によると、「特別な学生が行く所」という捉え方があるとのことでした。皆さんはどういうイメージをお持ちですか。本学にもそのイメージがあるとしたら、払拭するにはどうしたらいいかを課題として考えたいものです。「学生相談室は相談したいと思った時には気軽に行ける所」というイメージができていけばと思います。利用している学生はそう思っていると思います。学生だけでなく、大学関係者の方々や保護者の方々にもそんなイメージを持っていただけたらありがたいと思います。

ストレスの多い現代社会においては、しんどさが自分の問題としていつ襲ってくるか分かりません。悩んだことなどないという人はほとんどいないでしょう。その悩みにどう向かい、どう解決しようとするか…。特に思春期・青年期にある学生の皆さんは、悩むことは多いでしょう。悩むことは危機でもありますが、好機でもあります。悩みから逃げるのではなく自分の問題として取り組むことで自分を見つめ直し、自分らしく心理的に成長していくことにつながっていくのです。問題は自分で解決していくものですが、その際、悩みを一緒に考えていけたらという趣旨で学生相談室は開設されました。

カウンセラーとして、「その過程を一人ではなく一緒に考えていきませんか」とメッセージを送ります。アドバイスより一緒に考えることに重きを置いています。悩みに対してのアドバイスはいろいろあ

るでしょうが、アドバイスからだけではその悩みから抜け出せないことが多いのです。解決には別の方法も必要です。そのひとつとして、自分の中にあるいろいろな思いを言葉にしてみ、整理して、そして気づいていくという方法があります。悩みに主体的に取り組むのです。その作業を一緒にする過程がカウンセリングです。皆さんは話すことでスッキリしたという感触を味わったことはありませんか？言葉にしてみ、気づいたという体験はありませんか？人には自分で立って行く力が備わっているのです。多くの人に出会ってそれを実感しています。

学生相談室はいわゆる「よろず相談」的な部分を持っている所として考えていただけたらと思います。

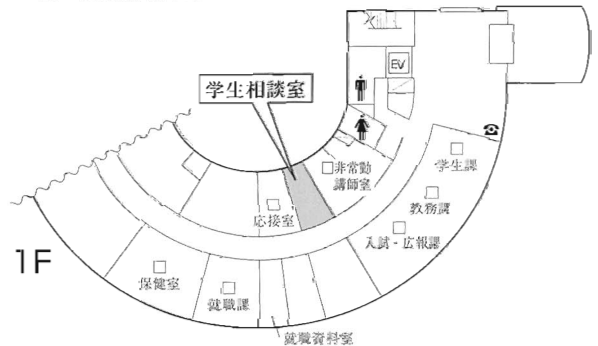
今まで学生相談室で一緒に考えてきた事柄を少し紹介してみましょう。

一番多いのは対人関係での相談です。人との関わりで傷つくことは大人になっても多いのですが、思春期・青年期には特に大きな課題となっています。この中には、友人、恋人、先輩、親子の関係などが含まれます。人と関わる中で元気にもなりますが、悩みも出てくるのは当然かと思えます。修学、進路のことでの相談もあります。就職するか進学するかだけでなく、このままでいいのかと休学、退学を考えての相談もあります。授業を受けることのしんどさの訴えもあります。これも、学生として程度の差はあれ、一度は考える課題かもしれませんね。心理テストをしに来る人もいます。

学生相談室の存在を知っていた方も知らなかった方もあったかとは思っています。イメージもいろいろでしょう。どんな所か関心のある方は、開室している日（火曜と木曜）に気軽に来室してください。

《場所》

本部・図書館棟1階



平成14年度就職状況中間報告

就 職 部

日本の経済は依然として沈滞が続いており、先行きに不安がありますが、幸い本学4年次生の就職・進路状況は一昨年度、昨年度と比べて好調に推移しております。これは、医薬品の適正使用をより充実させる医薬分業の進展が薬剤師需要を生み、また、国際競争の激化が製薬企業の求人増につながっているためと考えています。

本年度の就職活動の流れとしては、製薬企業(MR)や一部の保険薬局・ドラッグストアなどのセミナーが始まった3月頃から活発化しました。11月5日現在の卒業予定者(50期生)進路状況は別表に示すとおりです。全業種の内定率は昨年度と比べ3.5%高い状況(昨年度67.1%、今年度70.6%)にあります。特に大学院進学が増えて今年初めて女性が男性より実数で多くなっています。また、現在未定の多くの学生は病院薬剤師を第一希望としている学生です。

このように薬剤師を取り巻く環境が変化する中で3年次生313名(男性102名、女性211名)を対象として、初めての試みとしてインターンシップ*を取り入れました。夏休みを利用しての3日間、学内選考を経た7名の3年次生を大手製薬企業にお願いし実習・研修的な就業体験を実施しました。学生には貴重な体験を得ることができたと好評で、来年度も実施していきたいと考えています。

第一回就職ガイダンス(9月27日)においては「薬学生の進路・就職について」のテーマで矢内原学長に講演をお願いしました。また、昨年度から始めた領域別(企業、病院、薬局、進学)ガイダンスを行って進路・就職について真剣に考えるよう指導しております。

第二回就職ガイダンス(12月19日)では、適性試験(SPI)と製薬企業30数社の参加、協力を得て「学内企業セミナー」の実施を予定しています。

第三回目(2月3日)は保険薬局・ドラッグストア40数社にお願いして「学内企業セミナー」を予定しています。

さらに、3月には学生の職種選択と就職活動の一助として、希望職種別に昨年度の求人先、時期などについて紹介しながら個人面談を行う予定です。

第一回就職ガイダンス時のアンケートによれば、進路・就職希望先として女性の薬業関連企業(MR、

内勤)と病院への就職希望者や大学院進学希望者が多いのが特徴でした。

なお、2年次生に対しても、学科配属説明会(10月11日)において、インターンシップの案内や学科の特徴と就職との関連について説明を行いました。

今年の求人状況を見ますと、製薬企業ではMRを中心に例年より明るく、病院では欠員募集が主体になっており、保険薬局・ドラッグストアなどでは年間を通じて求人を受けております。求人総数は多いのですが、学生の希望する職種が必ずしも多いわけではありません。このギャップが私どもの課題であり、さらに、大学院学生の就職も重要になってきています。

最近の就職活動において、企業は勿論のこと病院、薬局などで学生の目的意識、マナーさらにはコミュニケーション能力などが重視されてきております。

就職部では、従来どおり学生一人ひとりの適性や能力に応じてキメ細かな就職指導、相談を行い、学生が満足のいく就職活動ができるように努力しておりますが、関係各位におかれましてもご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

*『インターンシップ』とは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」です(「教育改革プログラム」より)。

平成14年度卒業予定者(50期生)進路状況

(平成14年11月5日現在)

区 分	男性 %	女性 %	合計 %
薬業関連企業(MR)	14 13.6%	16 8.0%	30 9.9%
〃 (内勤)	1 1.0%	11 5.5%	12 4.0%
病院・診療所	2 1.9%	6 3.0%	8 2.6%
研 修 生	2 1.9%	12 6.0%	14 4.6%
薬 局	18 17.5%	48 24.0%	66 21.7%
公 務 員	2 1.9%	1 0.5%	3 1.0%
大学院・研究生	35 34.0%	44 22.0%	79 26.1%
そ の 他		2 1.0%	2 0.7%
内 定	74 71.8%	140 70.0%	214 70.6%
未 定	29 28.2%	60 30.0%	89 29.4%
合 計	103 100.0%	200 100.0%	303 100.0%

平成13年度学校法人決算

事務局長 肥塚敏彰

去る平成14年5月21日(火)に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成13年度決算が審議のうえ承認されたので、資金収支計算書(総括表)および貸借対照表を掲載します。

資金収支計算書(総括表)

(平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)

収入の部			(単位 千円)	
科目	予算	決算	差異	
学生納付金収入	2,425,000	2,472,837	△	47,837
手数料収入	121,100	145,384	△	24,284
寄付金収入	8,000	18,375	△	10,375
補助金収入	363,900	280,503		83,397
資産運用収入	10,000	27,911	△	17,911
資産売却収入	0	2,761,012	△	2,761,012
事業収入	319,000	355,036	△	36,036
雑収入	43,000	39,104		3,896
前受金収入	399,000	484,500	△	85,500
その他の収入	200,000	630,177	△	430,177
資金収入調整勘定	△ 590,000	△ 572,910	△	17,090
資金収入計	3,299,000	6,641,929	△	3,342,929
前年度繰越支払資金	458,000	434,926		23,074
収入の部合計	3,757,000	7,076,855	△	3,319,855

支出の部			(単位 千円)	
科目	予算	決算	差異	
人件費支出	1,376,000	1,312,969		63,031
教育研究経費支出	535,100	477,886		57,214
管理経費支出	378,700	394,904	△	16,204
借入金等利息支出	202,600	202,636	△	36
借入金等返済支出	358,500	358,470		30
施設関係支出	22,400	18,318		4,082
設備関係支出	322,300	169,325		152,975
資産運用支出	17,000	2,930,030	△	2,913,030
その他の支出	134,000	151,925	△	17,925
予備費	10,000	0		10,000
資金支出調整勘定	△ 115,000	△ 137,820		22,820
資金支出計	3,241,600	5,878,643	△	2,637,043
次年度繰越支払資金	515,400	1,198,212	△	682,812
支出の部合計	3,757,000	7,076,855	△	3,319,855

貸借対照表

(平成14年3月31日)

資産の部			(単位 千円)	
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定資産	17,820,164	17,639,527	180,637	
土地	8,722,723	8,722,723	0	
建物	5,877,508	6,137,888	△	260,380
構築物	126,197	131,114	△	4,917
教育研究用機器備品	717,594	713,813		3,781
その他の機器備品	74,761	84,808	△	10,047
図書	973,559	926,475		47,084
車両	0	0		0
電話加入権	1,598	1,598		0
施設利用権	21,653	24,018	△	2,365
有価証券	406,785	0		406,785
長期貸付金	4,000	4,000		0
退職給付引当特定資産	829,000	826,000		3,000
保証金	64,786	67,090	△	2,304
流動資産	3,386,300	3,359,413		26,887
現金預金	1,198,213	434,926		763,287
有価証券	1,999,940	2,667,000	△	667,060
未収入金	114,011	182,487	△	68,476
商品	22,638	23,134	△	496
前払金	50,674	51,866	△	1,192
仮払金	14	0		14
立替金	810	0		810
資産の部合計	21,206,464	20,998,940		207,524

負債の部			(単位 千円)	
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定負債	4,362,038	4,716,735	△	354,697
長期借入金	3,533,160	3,891,630	△	358,470
退職給付引当金	828,878	825,105		3,773
流動負債	960,487	929,643		30,844
短期借入金	358,470	358,470		0
未払金	97,801	90,568		7,233
前受金	484,500	458,900		25,600
預り金	19,716	21,705	△	1,989
負債の部合計	5,322,525	5,646,378	△	323,853
基本金の部				
科目	本年度末	前年度末	増減	
第1号基本金	15,029,099	14,614,262		414,837
第4号基本金	201,000	201,000		0
基本金の部合計	15,230,099	14,815,262		414,837
消費収支差額の部				
科目	本年度末	前年度末	増減	
翌年度繰越消費収入超過額	653,840	537,300		116,540
消費収支差額の部合計	653,840	537,300		116,540
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	21,206,464	20,998,940		207,524

薬用植物園見学会

薬用植物園長代行 草野源次郎

本学が現キャンパスに移転した平成8年4月以来7年間、4月～11月（8月を除く）の第3土曜日を薬用植物園市民見学会の日にしてきた。好評をいただいたこともあり、大学祭と市民講座の折りにも、見学会を追加してきた。また、幾つかの団体から依頼され、毎年数回の見学会を開催した。さらに、鉢植え展示会の開催や薬用植物に関する講演を依頼され、協力をした。

薬用植物園見学会の目的を「四季を通して、薬用植物の現物をまとめて見てもらうこと」とした。最近では毎回の見学会を楽しみにしている固定客が増えてきた。グループや家族で参加する人達、見学会を通じて知り合いになる人達、おもしろい薬用植物を持ち込む人達、ケナフ栽培や立派なヒマワリの育成を競っている人達、植物の諸器官を拡大鏡で観察する人達、立派な植物の写真を持参する人達等、本園を舞台に様々な人に出会うことができるようになっている。本学進学を目標に、熱心に薬用植物について学ぶ中学生もおり、この見学会が若者の進路選択に役立っていると感じることもある。

このように、本園の見学会はある程度の成果を上げていると自己評価している。また、喜多俊二さんが担当されていた頃は、園の造成期で、園芸植物を含めて多くの植物が見学できた。担当が高橋勉さんに代わった頃には、造成期に日陰を作るために植えた樹木が繁り過ぎ、日陰が多くなると共に、根を延ばし、葉草類の植栽地が狭くなり始めていた。高橋さんは樹木の根を切り、掘り起こして、植栽地を確保してきた。また、温室を中心に、多くの薬用植物を導入していただき、ウラルカンゾウの簡栽培の試みと共に、関心を集めている。同窓会から寄贈された薬木が立派に成長し、本格的な薬用植物園として風格が出てきた。一方、松原キャンパスから移植した植物に付いていたネコブセンチュウが広がり、一部に成長のよくない植物も見られる。このように、園の様子が変化し始めているが、喜多さん以来の雑草が少ない薬用植物園の特徴は維持され、見学者達からも賞賛されている。これらの移り変わりを鋭く

観察していただくことも願っている。

高橋さんが担当者になって、多くの薬用植物が導入されている。市民の同好者だけではなく、本学関係者にも大いに見学頂きたい。以下に注目していただきたいことを列記する。

1. 近年導入されたホソバオケラには、結実するものがあり、オケラとも交配し、その中間種と思われるものもある。中間種が除かれ、ホソバオケラとオケラ、オオバナオケラが植えられている。
2. 最近導入された中国産センキュウは、従来のセンキュウより大形で、よく開花結実する。今のところ、両者は異なる属に分類されているが、地上部の大きさが違うものの、花や莖葉の形はよく似ている。含有成分も似ており、近い将来、センキュウの分類が変更されるようだ。
3. 最近導入されたジンコウ（ジンキョウゲ科）の成長は非常に速い。中国産と東南アジア産があるが、花期が長く、姿のよい樹木である。
4. 喜村留美子さんから頂いた屋久島産パパイヤ（パパイヤ科）の種子から育った一本が温室内で大きく成長し、今年はじめて開花した。雌木であり、高橋さんは伊豆ワニバナ園から雄花を貰い受粉した。10個ほどの果実が大きくなりつつあり、成熟が待たれる。ナメクジの大好物で、果実をナメクジから守るのに苦労するという。
5. インドジャボク（キョウチクトウ科）と思っていたものは、アフリカ産のヨツバインドジャボクで、最近本物が導入された。
6. 枯れてしまったストロファンツ *Strophanthus gratus* やコショウが新たに導入された。特に先にあったコショウは果実をつけなかったので、今回の導入種が多くの果実をつけることが期待される。
7. アカキナノキの近縁種ポリビアアカキナノキ、シキミの近縁種ダイウイキョウが導入された。ポリビアアカキナノキは沢山花を付けており、アカネ科の植物の特徴が見られる。
8. 新たに導入されたギムネマ（ガガイモ科）、レモンユカリ（ミカン科）、コウリョウキョウやナンキョウ（ショウガ科）、イボツツラフジ（ツツラフジ科）、マカダミア（ヤマモガシ科）、永年の悲願であったトコン（アカネ科）、2種のワニラ近縁種（ラン科）など、成長が楽しみである。



「大薬祭」を歩く

学生部長 土 井 勝

学舎を新天地に移して六年余、木立のみならず人心までもが、すっかり奈佐原に根を下ろしたように思う。「大薬祭」も巡って第37回となり、この地での開催はもう7回を数える。学生諸君の創意による科学実験教室、薬用植物園見学会、園児の発表会、フリーマーケットなど、市民参加の企画もあって、地元住民の方々との交流に大いに貢献してきたと思う。

世界的にテロが横行し、日本は長引く不況に苦しみ、本学は国試合格率の改善が当面の重要課題となるなど、重く暗い影が漂う。そんな中、今回のテーマは「飛行船」であった。流線型の船体が悠然と大空を進む姿は、浮き世の些事を超越し、何物にも動じない大人の風格を感じさせる。せめて大薬祭の間だけでも浮き世を忘れたいという切なる願いなのだろうか、それとも、国試対策で何かと締めつけの多い昨今の風潮へのささやかなレジスタンスとアイロニーなのだろうか。

近頃は天気予報がよく当たる、かねての予報通り、開始前夜から雨となり、初日(11月1日)早朝は相当に降って、残念ながら、恒例のパレーボール大会が中止になった。雨中に交通整理をする学生の姿と、濡れて重そうな模擬店の屋台が、悲しげであった。その雨も昼前にはびたりと止み、その後の催しは計画通りであった。初日の私の最大の楽しみは、去年の大薬祭で味を占めた「大薬コレクション」なのだ。夕方から体育館で催されたのだが、初々しい1年次生がモデルとかで、遠目に見る浴衣の女子学生達は



大薬祭 科学実験教室

私の期待を裏切らなかった。

2日目には、科学実験教室があった。午前と午後の2回に分けて、にわか実験着にエプロンをまとった小学生が、熱心な保護者に付き添われ、実験するのである。顕微鏡での偏光の観察、発色と退色の反応、発泡を利用した火山作りなど、小学生には不思議な体験であっただろう。いつもは指導される立場の学生諸君も、ハラハラドキドキの監視の教員を尻目に、この時ばかりは「邪魔だそこのけ」と言わんばかりの奮戦ぶりであった。午後の実験中に、ビートのきいた音楽が窓外に聞こえる、野外ステージにエネルギッシュなダンスが始まっていた。

合間を見つけて、野外の模擬店巡りと相成った。野立の抹茶を一服してから、やかましく強引な押し売りの中を、何か掘り出し物はないものかと、やおらフリーマーケットを覗いてみた。奥に一升瓶がでんと鎮座しているなんとかクラブの店があり、持ち込み禁止を理由に、言い値の3分の1に値切って寝酒用買い込んでおいた。夕方から呼び物の「吉本MANZAI」があったが、前売りは好調とかで、席取りのために朝の6時から並んだ人もあったという。私は、見回りと称してチケットなしで入ろうとしたが、堅いガードに阻まれ敢えなく門前払いとなった。かなり遅くに終演したが、夜寒に大拳して追っかけている光景には、少なからず驚いた。

最終日の出し物「大薬コンテストSSIW」は、学生の発明になる巧妙な隠語である。女性に(わずかの)男性を交えて、個性を競うとの触れ込みなのだが、ここでも私は、密やかな意図を持って、寒風の中を野外ステージの最前列の真中の特等席で、じっと観賞や監督させてもらった。

これ以外にも、期間中の3日間にわたって、色々な競技や文化系サークルの発表会など、体力もしくは知性に訴える催しが目白押しであった。そして大薬祭の最後は、自己顕示欲の強い男子学生が女子学生を楽しませる「薔薇祭」が定番となっている。去年も今年も見物せざるを得ない立場に置かれたが、

図書課だより

女子学生はいざ知らず、男性の私には決して気持ちのいい見せ物ではなかった（やはり私には、……がいい）。

学生の本分は学業にあることは言うまでもないが、人間は絶えず緊張し続けていても、ここという大事な時に大きな力を出すことはできない。緊張と弛緩を適度に織り交ぜることが大切である。多くのスポーツがそうであるように、力を抜いた前駆状態があって、ここぞと極まった時に集中して万力を発揮できる。学業もこれと同じである。勉強一本槍は、勇ましくは見えても、大した成果は期待できない。一見無駄に思える息抜きこそが、その後の大きな飛躍のための助走として欠かせないのである。日頃は緊張して勉強に励んでいる学生諸君にとって、大葉祭は大いなる息抜きとなったであろうか。

今回の大葉祭に際しても、育友会と同窓会を始め、各種団体の皆様には多額の資金援助をいただき、心より感謝申し上げます。また、忙しい学業の合間に準備をし、開催に漕ぎ着けた学友会執行委員会と大葉祭実行委員会、そして協力を厭わなかった学生諸君の労をねぎらいたと思います。

大葉祭が無事に終了したのは当然として、自らは楽しまず、奉仕に徹している活動的な多くの学生諸君の姿に接し得たことは、私の最大の満足とするところです。



園児の発表会

◆電子ジャーナル

「電子ジャーナル」とは、インターネットを通じて、電子的に提供される雑誌のことを言います。

世界中で学術雑誌発行数は約50,000種類ありますが、約10,000種類がオンラインジャーナル化されているようです。

電子ジャーナルの出現によって、今までは図書館に出向いて手に入れていた雑誌文献を、研究室等から出版社のホームページにアクセスし、居ながらにして情報を入手することができます。雑誌の文献を探して書棚を歩き回ったり、コピー機まで運んでコピーする必要はありません。

本学図書館では、図書館のホームページにアクセスし、「ナレッジワーカー」にリンクして頂けると、購入雑誌全部を見ることはできませんが、出版社が無料で提供している雑誌は見るすることができます。

電子ジャーナルはリアルタイムの情報収集、容易な検索等メリットが非常に大きく期待が寄せられています。まだ問題点も多くありますが、これからの図書館として避けて通れない流れとなっています。

◆最近よく読まれている図書 (専門図書)

- ・実験を安全に行うために
- ・液クロ虎の巻
- ・薬学生のための疾患と病態生理
- ・活性酸素
- ・はじめて学ぶ大学の有機化学
- ・再生医学がわかる
- ・狂牛病のすべて
- ・薬物代謝学
- ・機器分析のてびき
- ・バイオ実験の進め方

(一般教養図書)

- ・プロジェクトX
- ・旅の仲間
- ・ハリコ・ポッターと賢者の石
- ・研修医なな子
- ・「好き」の精神分析
- ・ふわふわさんとチクチクさん
- ・よりぬき英会話入門
- ・コンセント
- ・ライオンは眠れない
- ・ER：緊急救命室(DVD)

総務課だより

◆ 人 事

<大 学 関 係>

併 任 (平成14年7月1日付)
防火管理者 栗原 拓史 (理事)

昇 任 (平成14年7月1日付)
係 長 村田 祐子 (学生課主任)

退 職 (平成14年7月31日付)
北川 美映 (嘱託職員)

退 任 (平成14年6月30日付)
沼田 敦・防火管理者

非常勤講師 (平成14年9月24日付)

小坂 美樹 (フランス語2)
斎藤 武 (数学2)
田口 侑男 (数学2)
中塚 宗次 (薬事関連法・制度)
中村 益久 (臨床薬理学1)
中村 恵 (ドイツ語2、ドイツ語4、
洋書講読ゼミ2)
榎矢 桂一 (ドイツ語2、洋書講読ゼミ2、
人文科学特論2)
村田 吉郎 (病態生理学2)
山内 真理 (英語2)
Joseph Michael Jacobs (英語4)
Julianne Gay Whitlam (英語4)
Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ2)

客員研究員 (平成14年11月1日付 期間1年)
若原 章男

<法 人 関 係>

理事・評議員の改選による異動

理事長就任 (平成14年6月28日付)
川 島 康 生

理事長退任 (平成14年6月19日付)
西 村 壯 一

理事就任 (平成14年6月20日付 任期3年)

有田 浩和 川島 康生
栗田 稔 栗原 拓史
岡田 健治 小網 和秀
梶川 益美 土井 勝

理事退任 (平成14年6月19日付)

池田 潔 澤木 茂
石田 寿昌 西村 壯一
大木 令司 藤田 武司
河野 光次

監事就任 (平成14年7月24日付 任期2年)

露口 佳彦 吉田 訓康

監事退任 (平成14年7月23日付)

石井 通洋 野村 美夫

評議員就任 (平成14年5月11日付 任期3年)

有田 浩和 佐藤健太郎
栗田 稔 澤木 茂
池田 潔 島田 眞久
石田 寿昌 菅 弘之
大木 令司 隅野 靖弘
大谷 光昭 田原 耕二
岡田 健治 千熊 正彦
岡本 彰 土井 勝
織田 美夫 人見 滋樹
梶川 益美 船倉 敏朗
栗原 拓史 森本 史郎
小網 和秀 矢内原千鶴子
後藤 俊男

評議員退任 (平成14年5月10日付)

岡野 吉秀 藤田 芳一
熊谷 信昭 藤本 守
高橋 市子 藤原 富男
西村 壯一 眞崎 知生
藤井 寿夫 目黒 寛司
藤田 武司

◆ 慶 弔

<叙位・叙勲>

西村 壯一 前理事長 平成14年9月16日
従四位
川島 康生 理事長 平成14年11月3日
勲二等旭日重光章

大木 令司 評議員 平成14年11月3日
勲四等旭日小綬章

< 訃 報 >

平野 弘 名誉教授 平成14年7月1日逝去

保坂 康弘 元教授 平成14年8月17日逝去

西村 壯一 前理事長 平成14年9月16日逝去

水谷 泰久 元教授 平成14年10月17日逝去

◆ 海外出張

松村 靖夫 教授
(生命薬科学部門病態分子薬理学研究室)
<出張期間:平成14年6月28日~7月2日>
第2回国際天然物学会 (ISDNP) における招待講演
(Singapore, Malaysia)

藤井 忍 助手 (生化学教室)
<出張期間:平成14年6月28日~7月7日>
FASEB Summer Research Conferences, Meeting
Phospholipases
(Tucson, Arizona, USA) にて発表

石田 寿昌 教授、友尾 幸司 助手
(薬品物理化学教室)
<出張期間:平成14年8月6日~8月17日>
第19回国際結晶学会
(Geneva, Switzerland) にて発表

辻坊 裕 助教授 (微生物学教室)
<出張期間:平成14年10月15日~10月20日>
チェラロンコン大学、アジア工科大学の見学
およびセミナーの参加
(Bangkok, Thailand)

玄番 宗一 教授 (薬理学教室)
<出張期間:平成14年10月29日~11月8日>
北米神経科学会議参加ほか
(Orlando, USAほか)

松村 靖夫 教授
(生命薬科学部門病態分子薬理学研究室)
<出張期間:平成14年10月30日~11月3日>
BRAND'S Scientific Meeting/Regional Symposium
on Functional Food

(Kuala Lumpur, Malaysia) にて発表

玄番 宗一 教授 (薬理学教室)
<出張期間:平成14年12月1日~12月5日>
日中合同トキシコロジー学会
(深圳市、中国) にて口演討論

◆ 海外留学

岩永 一範 助手 (薬剤学教室) <留学期間延長>
平成13年7月1日~平成14年6月30日を平成13年
7月1日~平成14年12月31日に変更

◆ 名誉教授称号授与式

平成14年6月27日 (木) 午前11時30分より学長室
において、藤田直元教授に対する大阪薬科大学名
誉教授称号授与式が挙行された。



◆ 9月卒業式

平成14年9月27日 (金) 午前10時より大会議室に
おいて、平成14年9月卒業式 (薬学科9名、製薬学
科4名) が関係者参列のもとに挙行された。



◆ 各部・委員会・委員一覧(追補)

カリキュラム委員会	◎は委員長
○玄番 宗一 (教授)	池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)	掛見 正郎 (教授)
加藤 義春 (教授)	馬場きみ江 (教授)
木村捷二郎 (教授)	松村 靖夫 (教授)
藤田 芳一 (助教授)	松島 哲久 (助教授)

教務課だより

平成15年度大学院薬学研究所
博士前期課程（修士課程）入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 6名（臨床薬学コースを含む）
出願期間 平成14年6月10日（月）～6月21日（金）
面接試験 7月1日（月）
合格発表 7月8日（月）
志願者 12名〔男子1名、女子11名〕
うち、臨床薬学コース 2名
〔男子0名、女子2名〕
受験者 12名〔男子1名、女子11名〕
うち、臨床薬学コース 2名
〔男子0名、女子2名〕
合格者 6名〔男子0名、女子6名〕
うち、臨床薬学コース 2名
〔男子0名、女子2名〕

(一般入試1次)

募集人員 24名（臨床薬学コースを含む）
出願期間 平成14年7月22日（月）～8月2日（金）
学力試験 8月21日（水）
〔外国語科目（英語）、専門科目〕
〔臨床薬学コース希望者および他大学出身者のみ面接試験〕
合格発表 8月30日（金）
志願者 67名〔男子33名、女子34名〕
うち、臨床薬学コース 9名
〔男子2名、女子7名〕
受験者 64名〔男子32名、女子32名〕
うち、臨床薬学コース 8名
〔男子2名、女子6名〕
合格者 51名〔男子23名、女子28名〕
うち、臨床薬学コース 8名
〔男子2名、女子6名〕

(一般入試2次)

募集人員 若干名（臨床薬学コースを含む）
出願期間 平成14年10月7日（月）～10月11日（金）
学力試験 10月18日（金）
〔外国語科目（英語）、専門科目〕
〔臨床薬学コース希望者および他大学出身者のみ面接試験〕
合格発表 10月25日（金）
志願者 13名〔男子10名、女子3名〕
うち、臨床薬学コース 0名
受験者 13名〔男子10名、女子3名〕
合格者 10名〔男子8名、女子2名〕

◆ 学位授与

[博士]

論博第34号 博士(薬学) 山田 剛司
海洋生物由来菌類の産生する抗がん剤のシーズの探索研究
(平成14年7月3日付)

[学士]

学士(薬学) 薬学科 9名 製薬学科 4名
男子 5名 女子 8名 合計 13名
(平成14年9月30日付)

◆ シラバス・ホームページ(e-syllabus System)の開設について

<http://syllabus.oups.ac.jp/>

これまで「授業の内容」(シラバス)は冊子の配布のみでしたが、本年度より、これに加え学内LANに接続するコンピュータで同じ内容を閲覧できるようにシラバス・ホームページを開設しました。このシステムには次のような利点があります。

- (1)全データを、色々な条件で検索することができる。
- (2)変更や修正を随時行うことで、最新の状態を維持できる。
- (3)画面がカラーで見やすい。
- (4)学内LANに接続されているコンピュータからいつでも利用できる。
- (5)本年度以降のシラバスも蓄積され、閲覧できる(来年度以降)。

データの検索には色々な方法があります。メインメニューから該当年度の「学年別」「学期別」「学科別」「教員別」「全開講科目」「詳細検索」を選択する方法では、「学科別」を例にとれば、学科別の開講科目を調べることや、更に「必修」「選択必修」「選択」別に表示させることができます。「詳細検索」では、細かい条件を組み合わせたリ、単語による全文検索が可能です。

当面、学内LANに接続されているコンピュータ(情報科学演習室、図書館、各研究室等)からの利用に限定していますが、自宅でも利用できるようCD-ROMも併せて作成しました。こちらには、検索機能のうち「詳細検索」機能はありません。

◆ 教務課ホームページの開設について

<http://kyoumu.oups.ac.jp/>

本年度後期より、教務課ホームページを開設しました(学内LAN専用)。教務関係の主な配布物や申請書(届出書)等の様式をダウンロードすることができます。申請書等を教務課に取りに行く手間が省け、書類の作成や必要添付書類の準備などを事前に行うことができますので、利用してください。

施設課だより

◆ 教育環境整備

(天井吊下型プロジェクターの導入)

授業や研究発表の際、パソコン用プロジェクターの利用を容易にし、また、テレビ画面をスクリーンに拡大して見られるように、天井吊下型プロジェクターを導入しました。

導入時期：平成14年5月

導入教室：講義・実習棟1F・2A・2B・2C・2D教室



ノートパソコン画面からスクリーンへの映写



テレビ画面からスクリーンへの拡大映写

経理課だより

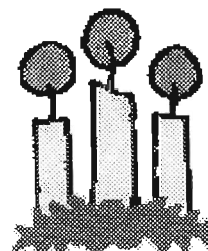
◆ 平成15年度の学費について(学部)

平成15年度の学費が次のとおり決定しましたのでお知らせします(本年度と同額)。

(単位 円)

学費内訳	金額
授業料(年額)	1,200,000
施設・設備費(年額)	600,000
計	1,800,000

* 2年次以降、実習費を徴収する場合があります。



学生課だより

奨学生状況

平成14年11月1日現在

1. 日本育英会

区 分		1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種		20	19	27	26	17	109
月 額	自 宅	51,000円	51,000円	50,000円	50,000円	85,000～	
	自宅外	61,000円	61,000円	60,000円	60,000円	119,000円	
きぼう21プラン		63	46	73	46	9	237
月 額 (薬学課程増額月額)		3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合 計		83	65	100	72	26	346

2. その他の育英・奨学会

区 分	月 額	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
(財)伊予三島奨学会	25,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
(財)大阪府育英会	30,000円	—	1	0	0	—	1	貸与
(財)岡山県育英会	48,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
岐阜県教育委員会	32,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
岐 阜 市	39,000円	0	0	0	1	—	1	貸与
(財)交通遺児育英会	50,000円	0	0	0	1	—	1	貸与
東大阪教育委員会	17,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
(財)小野奨学会	学部30,000円 大学院60,000円	1	3	1	1	3	9	給付
(財)佐藤奨学会	19,500円	0	1	0	0	—	1	給付
(財)大東育英会	25,000円	0	0	1	0	—	1	給付
(財)朝鮮奨学会	25,000円	0	1	0	1	—	2	給付
(財)森下仁丹奨学会	30,000円	—	—	—	—	1	1	給付
大阪薬科大学育友会奨学会	40,000円	2	0	2	1	1	6	貸与
合 計		3	9	6	5	5	28	

○学生証の更新について

赤色の学生証（平成13年入学者、平成11年以前の入学者対象）の有効期限は、平成15年3月31日までとなっています。このため、新年度に向けて学生証の更新手続きが必要になります。更新時期や手続き等については、学生部の掲示板で随時案内しますので、注意しておいてください。

○自動車・単車通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣居住者への迷惑防止、構内での交通安全

を確保し学内環境を保全するため、自動車・単車（原付を含む）の入構については原則として禁止しています。

しかしながら、近隣路上に迷惑駐車をする学生が、後を絶ちません。利便性から「これぐらいはいいのでは」という安易な駐車が、大学周辺の居住者にとっては大きな迷惑となっています。学生自身の安全のためばかりでなく、居住者への迷惑防止のためにも、学内交通ルールを守り、バス等公共交通機関を利用し通学するようにしてください。

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成14年度）

◆関西薬連大会

クラブ名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 予選敗退 女子 1 位	個人／3位・梅本③
硬 式 庭 球 部	男子 2 位 女子 1 位	シングルス／3位・中川① シングルス／2位・藤田①
硬 式 野 球 部	4 位	
サ ッ カ ー 部	2 位	
柔 道 部	男子 2 位 女子 ー	無段／3位・杉本② 個人／2位・池林③ 3位・大町③
ソフトテニス部	男子 6 位 女子 3 位	ダブルス／ベスト8・青木④・尹③
卓 球 部	男子 予選敗退 女子 ー	
バスケットボール部	男子 2 位 女子 3 位	
バドミントン部	男子 10 位 女子 8 位	シングルス／3位・清水②
バレーボール部	男子 4 位 女子 2 位	
陸 上 競 技 部	総合 3 位 男子トラック 5 位 フィールド 4 位 女子トラック 4 位 フィールド 2 位	走り高跳び／1位・重田② 4×100mリレー／2位・小野③・戀中③・佐々木③・廣瀬③ 100mハートル／2位・戀中③ 走り高跳び／1位・都築① 走り幅跳び／2位・戀中③ 円盤投げ／3位・佐々木③ 砲丸投げ／3位・廣瀬③ やり投げ／1位・神田③ 2位・小野③

◆全国薬連大会

クラブ名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 予選敗退 女子 3 位	個人／ベスト8・鈴木③
ソフトテニス部	男子 決勝トーナメント初戦敗退 女子 3 位	
卓 球 部	男子 予選敗退 女子 ー	
バスケットボール部	男子 予選敗退 女子 ベスト8	

注) ○内は学年

平成14年度後期行事予定

〈学部〉

平成14年

8.30 (金)	前期再試験受験者発表 (1～3年次生)
9.2 (月)	前期再試験(4年次生・1～4年次全科目)
9.17 (火)	
9.5 (木)	前期再試験 (1～3年次生)
9.18 (水)	
9.7 (土)	平成15年度編入学試験 (H方式)
9.18 (水)	平成15年度編入学試験 (H方式) 合格者発表
9.19 (木)	後期授業開始 (1～3年次生)
9.19 (木)	月曜講義の振替開講日 (1～3年次生)
9.20 (金)	
9.25 (水)	特別再試験受験者発表 (4年次生)
9.27 (金)	後期選択科目(1～3年次生)履修届提出締切(教務課)午後3時 就職ガイダンス (3年次生)
10.12 (土)	平成15年度AO入学試験(A方式)第2次選考
10.18 (金)	平成15年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験 平成15年度AO入学試験(A方式)第2次選考結果発表
10.19 (土)	第1回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
10.21 (月)	特別再試験 (4年次生)
11.25 (月)	
10.25 (金)	平成15年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
10.26 (土)	平成15年度AO入学試験(A方式)第3次選考
10.31 (木)	平成15年度AO入学試験(A方式)合格者発表 第37回大薬祭準備(午後臨時休講)
11.1 (金)	第37回大薬祭等(臨時休講)
11.4 (月)	
11.9 (土)	第2回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
11.10 (日)	平成15年度推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
11.22 (金)	平成15年度推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
11.30 (土)	第3回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
12.11 (水)	実験動物慰霊祭
12.14 (土)	平成14年度長期病院実務実習報告会(4年次生長期病院実務実習コース)
12.19 (木)	就職ガイダンス (3年次生)
12.20 (金)	後期授業年内終了 (1～3年次生)
12.21 (土)	第4回薬学総合演習総合試験 (4年次生)

平成15年

1.7 (火)	後期授業再開 (1～3年次生)
1.8 (水)	薬学総合演習正規試験 (4年次生)
1.9 (木)	
1.15 (水)	月曜講義の振替開講日 (1～3年次生)
1.16 (木)	
1.16 (木)	後期授業終了 (1～3年次生)
1.17 (金)	後期授業予備日(午後臨時休講) 平成15年度大学入試センター試験実施準備(午後)
1.18 (土)	平成15年度大学入試センター試験 〔センター試験利用入学試験(C方式)〕
1.19 (日)	
1.20 (月)	後期定期試験 (1～3年次生)
1.31 (金)	
1.23 (木)	薬学総合演習再試験 (4年次生)
1.24 (金)	
2.1 (土)	平成15年度一般入学試験Ⅰ (F方式) (本学・大阪予備校・広島国際会議場)
2.3 (月)	後期定期試験 (1～3年次生) 欠席届提出締切(教務課)午後1時 就職ガイダンス (3年次生)
2.7 (金)	平成15年度センター試験利用入学試験(C方式)・一般入学試験Ⅰ (F方式) 合格者発表
2.9 (日)	平成15年度一般入学試験Ⅱ (G方式)(本学・大阪予備校)
2.10 (月)	後期再試験受験者発表 (1～3年次生)
2.14 (金)	卒業者発表(教務課)
2.15 (土)	平成15年度一般入学試験Ⅱ (G方式) 合格者発表
2.17 (月)	後期再試験 (3年次生)
2.22 (土)	
2.17 (月)	後期再試験 (1・2年次生)
2.27 (木)	
2.28 (金)	特別再試験受験者発表 (3年次生)
2.28 (金)	薬剤師国家試験全国統一模擬試験 (4年次生)
3.1 (土)	
2.下旬	就職個人面談 (3年次生)
3.上旬	
3.8 (土)	第50期学部卒業式
3.10 (月)	特別再試験 (3年次生)
3.13 (木)	
3.20 (木)	進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
3.29 (土)	第88回薬剤師国家試験(厚生労働省)
3.30 (日)	

〈大学院〉

平成14年

9.20 (金)	後期特論開始
9.27 (金)	後期特論選択科目履修届提出締切 午後3時 (教務課)
10.7 (月) }	平成15年度(第2次)修士課程一般入学試験出願 受付
10.11 (金)	
10.18 (金)	平成15年度(第2次)修士課程一般入学試験
10.25 (金)	平成15年度(第2次)修士課程一般入学試験合格 者発表
12.16 (月)	後期特論終了

平成15年

1.22 (水) }	平成15年度博士後期課程入学試験出願受付
1.29 (水)	
2.12 (木)	平成15年度博士後期課程入学試験 修士学位論文提出期限 午後1時(教務課)
2.18 (火)	平成15年度博士後期課程入学試験合格者発表
2.21 (金)	修士学位論文発表会
3.4 (火)	平成14年度修士課程修了者発表
3.8 (土)	第27期大学院学位記授与式



薬

発 行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (072) 690-1000 (代表)

FAX (072) 690-1005

URL <http://www.oups.ac.jp/>